

## 第4回淀川の魅力ある景観づくりに向けた検討会 議事概要

---

開催日時：平成31年3月5日(金) 9:30~11:00

出席委員：藤本委員、加我委員、石田委員、江藤委員、久ノ坪委員、一本松委員

オブザーバー：大阪府、守口市、枚方市、摂津市、高槻市、京都府、八幡市

事務局：大阪府住宅まちづくり部都市空間創造室

---

### <江藤委員>

- 淀川の景観は、ここにかかわる「コト」すべてが淀川の景観づくりと捉え、淀川で活動するすべての人々が取り組みをしっかりと見せるというのがあります。
- この資料を見た関係者外の方が、健康や観光をキーワードに、次の活動に繋がるようなことを考えた時、問い合わせ先等があれば、次の行動に移しやすいと思います。

### <藤本委員>

- 1. 淀川の変遷の節が、1、2、3、4という単なる数字になっていますが、他の章の節では、2-1、2-2、2-3となっているので、統一した方がいいのかなと思います。
- 5ページで、淀川距離標 0.00km 地点があり、次の地点が何 km なのか記されていません。知りたくなる人もいますので、記載した方が良いでしょう。
- 7ページの基本目標はすごく大事なので、声に出して読んでいくために、ここだけでもふりがなをつけた方が良いでしょう。
- 9ページの隅田川のライトアップの写真ですが、ここは淀川、関西でまとめた方が良いでしょう。
- 10ページの上の河川空間でのキャンプの写真が、あとの事例紹介ででてくる写真と同じものです。もし他に良い写真が無ければ、個人的な活動にはなりますが、ヨシ船の写真を提供します。
- 11ページのイメージ図は、淀川沿川まちづくりプラットフォームの説明がここにあることが図と連動してわかるように、図の中にも※マークを入れる必要があると思います。
- 活用事例の中の紺色の帯と水色の帯とで、丸が重なるので、どちらかはとった方が良いでしょう。
- 事例の中では各事例が景観にどう関係しているのかが、文章中に比較的言葉として表れているが、9、10ページで、景観の向上をすべて言っているかというところではないと思います。ちょっと私も文章を検討したいと思います。

### <事務局>

- 最終、とりまとめに向け参考にさせていただきたいと思います。

<加我委員>

- 淀川の魅力ある景観づくりに向けて、ホストとして、ゲストとして景観づくりにかかわっていくんだということが上手く表されていると思います。
- 淀川沿川まちづくりプラットフォームで調整して、景観づくりの取組みを行っていくことになると思いますが、プラットフォームなので、住民、民間団体、行政機関が一同に会して、取り組んでいくようなイメージをもっています。P11の図に、3つの円があることに違和感がありますので、ご検討いただければと思います。
- 淀川の主な景観資源の遠景から近景の整理ですが、活動・にぎわいのところが、不十分だと思います。遠景は上空に飛んでいる飛行機など、近景は顔を確認できる活動かだと思います。ただ、活動は活動でもスポーツなどの流域全体で見られる、淀川の広がりを感じるものは、ある地域でしか見られない点の活動よりも遠景というような感じで整理されれば良いと思います。
- 淀川の河川敷を使ってプログラムをする時の一番重要なことが、活用事例のやすらぎ堤に記載されている、悪天候時などの現場対応だと思います。事業者は、悪天候がいつ発生するのかということに気をつけなければいけませんので、配慮事項になっているそうではなく、配慮事項になっていますに修正していただきたいです。

<事務局>

- 淀川沿川まちづくりプラットフォームは、淀川沿川で活動されている団体さん、企業さんが集まる民間主導の場で、そこにオブザーバーとして行政機関が入っているという構図です。そこに参画していない方々も新たにプラットフォームをつくるという訳ではなく、他の人との関わりも含めて、こういう表現になったんですけども、二重構造的に見えてしまいわかりづらいというところがあると思いますので、ご意見を参考にもう少し考えたいと思います。

<石田委員>

- 今のお話に繋がるんですけど、淀川は年間通して水害が多いです。現時点のとりまとめでは、水害はP6にしか記載がありません。淀川でイベントをするとなると、熱中症や水害などの気象条件や災害、水位の変化にはかなり配慮しないとはいけません。淀川の特徴として、どこかに入れていただいた方が企画段階で気付けると思います。
- 2025年に大阪万博がベイエリアで「いのち輝く未来社会のデザイン」という健康寄りのテーマで開催されます。万博は良い機会なので、もっと環境にも注目し、淀川流域が世界から注目されて欲しいと思います。

<事務局>

- いくつか重要なキーワードをいただいたので、最終のとりまとめでは反映させていきたいと思っています。

<久ノ坪委員>

○大川では、船の係留が乱雑にされていることもありますが、係留されている様子も景観なので、どうやったら美しく係留できるかを考えたり、船を造る時に、歴史を想起できるものへ積極的にしていくということもこれから必要になってくるという風に思います。改めて、環境も含めて、これから自分たちに何ができるのかを主体的に考えていこうと思いますし、他の会議の場でも、こちらの内容を私なりの立場でお伝えしていきたいと思います。

<事務局>

○淀川の景観を考える上で、環境をどれだけ考えられるかが、鍵になってくるのかなと思いました。どういう形で環境面の重要さを打ち出していくか、引き続き考え、勉強させていただきたいと思います。

<一本松委員>

○活動の連携はうたっていますが、日常的な人の交流っていうのがないと思います。江戸時代の街道も含めて、人の流れがあった場所が淀川の流域だったと思います。今であれば、サイクリングコースや散歩コースになって人が動いたり、船に乗って移動するとか、人と人とが交流しています。地域がつながるのは活動の連携だけではないと思います。

○淀川の恵みを楽しんでいる中には、淀川の川砂の採取があります。川砂はコンクリート工事には欠かせず、淀川の河川土砂組合さんが、毎日、枚方より下流域の砂を採って、大阪市内で上げられ、高度成長期のハードづくりの礎を担っていましたし、今では、それに加え、河川の河床維持にも役立っています。

○活用事例はイベント的なものを入れていただいています。先ほどの万博の話もありますし、環境保全や歴史保全の海外事例があった方が夢があって良いと思います。

<事務局>

○海外事例は何か良い事例を教えてください、掲載していきたいです。

<オブザーバー>

○活用事例等は、取組みの発展につながるかもしれないので、随時更新される方が良いかなと思います。

○P26の景観マップ内に久御山町が入っているのに、P20には記載がないので、記載してもらいたいと思います。

○「はじめに」と「むすび」を見ればどのような資料かがわかるが、「はじめに」にどのように活用していくものかの記載がもう少しあった方がわかりやすいと思います。

○今回、活動を中心にまとめられているが、淀川から見える建物、構造物への景観上の配慮事項等があれば良いと思います。

<事務局>

○淀川から見える建物等への配慮事項は、各景観行政団体で一定の記述がされておりますし、大阪府の都市景観ビジョンでも河川軸の考え方は示されています。今回は、淀川からどのような景観資源が現時点で見えるのかという視点でまとめさせていただいております。

<オブザーバー>

○冊子については、まずはこれがスタートだと認識しています。これを契機に、色んな形で情報発信を行い、淀川を基軸にまちがつながっていけばと思います。

○関係者だけでなく、様々な方に見てもらえる資料なので、今後この冊子をどのように活用して欲しいのかを「はじめに」に記載されておいた方がよりわかりやすくなり、読みたくなると思います。

○今後、淀川に橋梁がかかる計画がありますので、今回の内容が計画に反映されていけばと思います。

<一本松委員>

○活用事例では舟運が取り上げられていますが、**P9,10**の様々な取組みには舟運がないです。舟運と鉄道は当然ある前提で構成されていると思いますが、舟運については、まだ日常的にはなっていないので、**P9,10**の様々な取組みの中に舟運という言葉を入れていただきたいです。

<石田委員>

○基本目標で保全と創造としているので、保全の事例もあった方が良くと思います。下流から上流にかけて清掃する淀川水系一斉美化アクションであったり、城北ワンド周辺では、イタセンパラの保全など、自然を維持・保全するようなものもありますので、保全の事例の掲載もあれば良いと思います。

<事務局>

○事例は、もう少し追加したいと思います。

<藤本委員>

○大阪府でも**10**年程前に、淀川等沿岸区域を定めています。公表時のウェブでの紹介でも良いと思うので、景観法に基づいた誘導は別でしているという内容の導入が必要かなと思います。

<事務局>

○事務局の立場ではございますが、一言だけ。昨年度の淀川沿川まちづくりプラットフォームで、淀川の水のきれいさは淀川の魅力的な資源とおっしゃっていたことを今思い出しましたので、**P6**の景観資源の中に、水のきれいさを入れておいた方が良くと思います。

<事務局>

○年度末の公表に向け、今回いただいた意見を基に、修正をかけたいと思います。